

9:30	受付				
10:00~10:10	オリエンテーション				
10:20~12:10	分科会1 4つの中からひとつお選び下さい。 	☕ ①新・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」 実際に部屋の中で移動したり体を使ったりしながら、世界の格差や多様性を体感するワークショップ。世界にはどんな人が住んでいて、どんな状況にあるのか、参加者自身が様々な立場の人になりきって考えます。国際理解の導入によく使われ、入門編としても最適な分科会となっています。授業の中でどのように活用できるのか、参加者との意見交換の時間も設けられたらと思います。 担当： 田中 靖士(大江町立左沢小学校教諭) IVYyouthメンバー	☕ ②ワールドカップ南アチームのゴールから学ぶ 2010年サッカーW杯南ア大会。南ア代表のゴールを最初に決めたソウェト出身のシャバララ選手を知っていますか？ソウェト Soweto とは、South Western Townshipsを意味し、反アパルトヘイト運動のシンボルとも言える場所。南アに今ものこる人種差別の影とそれが教育にもたらす影響を考えます。南アの現状と展望からどんなことが学べるのか、参加者と共に考えていきます。 担当： 小林 明子(鶴岡市立羽黒中学校教諭)	☕ ☕ ③君は20歳になったら、選挙に行く？ 県内の20~24歳の投票率は30%以下。選挙の大切さを子どもたちにわかってもらいたいと、小6社会の授業で取り上げました。地球上の様々な問題を考える上で、「選挙」の仕組みを理解しておくことは大事です。「自分が20歳になった時は選挙に行く？」「どうして選挙するの？」子どもたちが意欲的に取り組んだワークショップ型の授業。朝日新聞全国版でも紹介された授業に、皆さん是非ご参加下さい。 佐竹 康弘(寒河江市立南部小学校教諭)	☕ ☕ ④協力隊 擬似体験ワークショップ 「青年海外協力隊の活動を子どもたちに伝えるよい方法は？」この分科会では、協力隊を取り上げる授業において、隊員経験者が現地で感じたこと、学んだことを活かす方法を提案します。講話・講演形式ではない参加者体験型の授業を紹介したり、テーマに応じた出前授業をプランニングしたりします。みんなで楽しい授業づくりをしてみませんか？ 担当： 佐藤 敏幸(独立行政法人国立青少年教育振興機構国立花山青少年自然の家企画指導専門職)
12:10~13:00	休憩				
13:00~14:00	実践事例紹介 国際理解ゼミでの取り組み (米沢市立第二中学校) 今年度の総合学習の中で「国際理解」ゼミを選択し、個人テーマ研究やゼミテーマ「フェアトレード」についての調べ学習や体験学習にとりくんだ1年生の皆さんに発表していただきます。そもそもフェアトレードとは？フェアトレードが世界に与える影響とは？生産者も消費者も幸せになるには？実際に商品を作るところから携わっていらっしやるNGOの方から聞いた話や、体験学習からどんなことを感じたかについても聞いていただきます。 担当： 米沢市立第二中学校1年生「国際理解ゼミ」の皆さん 折笠由香里(米沢市立第二中学校教諭)	カンボジア教育支援プロジェクト (IVYyouth) IVYyouthの活動部門の一つ「カンボジア算数教育支援プロジェクト」の一環で今夏、2週間の現地調査を行いました。カンボジアでは先生の指導力不足、教材不足から来る落第が原因で中退率が高く、学びやすい算数教材(ドリル)を作成することで、これに歯止めをかけるのがプロジェクトの目標です。実践報告では、現地調査をふまえたドリルの作成や子どもたちの学力テストの結果について紹介します。 担当： IVYyouthメンバー	 世界がもし100人村の村だったら(H21年度)	 新・貿易ゲーム(H21年度)	
14:10~16:00	分科会2 4つの中からひとつお選び下さい。 	☕ ⑤新・貿易ゲーム 「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在する様々な問題についての気づきを得るワークショップ。グループに分かれて「製品」を作り、それを「マーケット」に売り、収入を得るといったシンプルな内容ながらも、参加するたびに新たな展開、新たな気づきが得られるのがこの教材の魅力です。様々なアレンジバージョンも開発されていますが、今回は基本編を実施します。 担当： 寺澤 恵(米沢市立第四中学校教諭)	☕ ☕ ⑥新・ワークショップ版 「新・世界がもし100人の村だったら」応用編 分科会①で基本編を取り上げる通称「100人村」。もう既に授業で実践したり、市民講座で体験したりしている人も多はず。基本編で体感した世界の現状をふまえて、そこから一歩ふみこんで、私たちがこれからどういう未来が作って行けるのかを、参加者と一緒に考えてみましょう。 担当： 増川 秀一(寒河江市立柴橋小学校教諭) 協力： 田中 靖士(大江町立左沢小学校教諭)	☕ ☕ ⑦貧困層ってどんな人？ (特活)国際ボランティアセンター山形(IVY)が支援するカンボジア・スバイリエン州の農村の状況を題材にしたオリジナルワークショップ。カンボジアの人々の生活を写真や年収、支出の内容を知ることで、その置かれている状況を理解し、どんな支援が必要なのかを考えていきます。実際にカンボジアの現場を視察したメンバーが進行役をつとめます。 担当： 鈴木 優子(山形県立谷地高等学校教諭) IVYyouthメンバー	☕ ☕ ⑧世界の水事情 JICA青年海外協力隊経験者と学校の先生方がタッグを組んで授業を作ったらどうなる？協力隊員が世界各地で出会った風景や2年間の経験を素材に、授業案を組み立ててみましょう。今回は題材として「水」をとりあげます。実際に米沢で結成された「FKG米沢」のメンバーが、勉強会で組み立てた授業案も紹介する予定です。 担当： 高橋 由美子(小国町立小国中学校教諭) 鈴木 精(私立九里学園高等学校教諭)
16:10~17:00	全体会				

◆メイン会場では、ワークショップの教材も多数ご用意しております。ぜひこの機会にご覧下さい。

「国際理解教育に取り組みたい・・・
でも、授業ではどんな事を取り上げたらいいんだろう？」

「外部から講師をよびたいんだけど・・・」

「国際理解教育の資料はどこで探せばいいの？」

そうした疑問や相談にお答えしようと、実際の授業で使える内容を取り上げます。午前と午後に様々な分科会を設けましたので、学校で出来るワークショップをじっくり体験していただくことができます。また、二つのユニークな実践事例の紹介もぜひご覧ください。

全体を通しての参加はもちろん、一部のワークショップだけの参加も可能です。

同僚の先生や、お友達と参加して、別々のワークショップを体験、後でシェアする方法もあります。

学校現場の先生方とともに「明日からの授業に使える」内容を盛り込んだセミナーです。

どうぞお気軽にご参加ください！

お問合せ先

(財)山形県国際交流協会 担当:阿部、JICA山形デスク 伊東
TEL: 023-647-2560 FAX: 023-646-8860
E-mail: airy@jan.ne.jp URL: http://www.airyamagata.org
開館: 火曜日～日曜日 10:00～18:30 (休館: 月・祝祭日)

主催

財団法人山形県国際交流協会(AIRY)、独立行政法人国際協力機構(JICA)東北

後援

山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会、
山形県国際理解教育研究協議会、山形県高等学校国際教育研究協議会、
国際理解教育実践活動にかかる支援・連携を考える会

協力

認定NPO法人国際ボランティアセンター山形(IVY)

(順不同)

体験！実践！国際理解教育実践フォーラム

使える！授業の

レシピ

参加費
無料

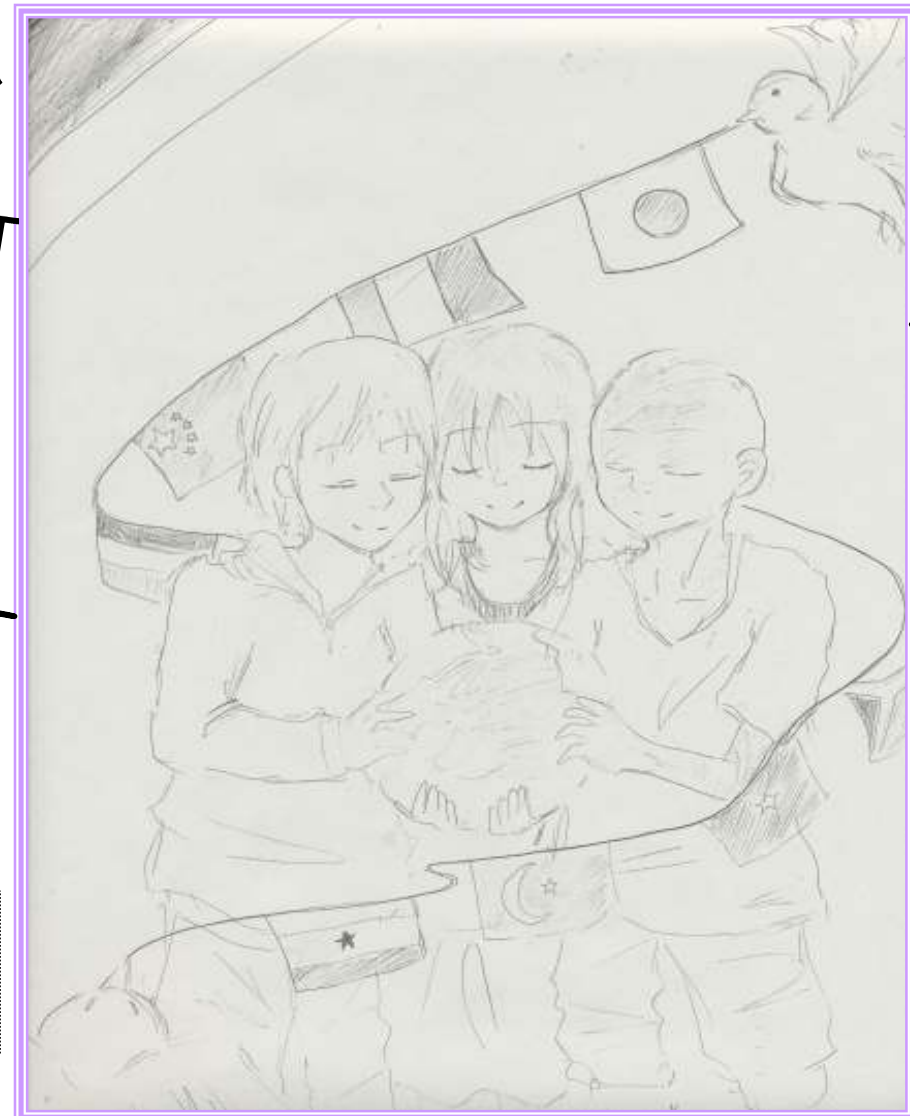
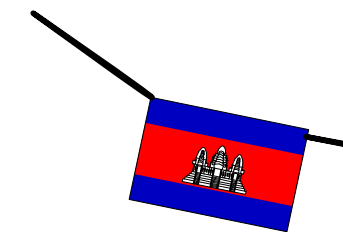
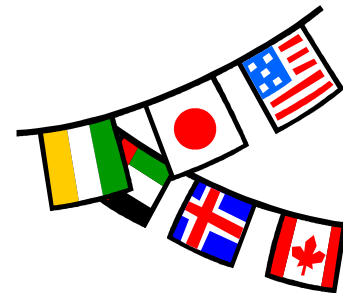


イラスト:
米沢市立第二中学校1年
船山裕衣さん、入澤未央さん

先進国の子供たちも、発展途上国の子供たちもみんな一つの地球に住んでいる。作ろう私たちの未来！みんなの笑顔で！

11月20日(土) 10:00～17:00

場所 山形県国際交流センター研修室
(山形市霞城セントラル2階・・・山形駅西口直結)

参加申込書付き

※駐車場は各自ご用意願います。